



## 対 談

宮家 準

国学院大学大学院講師・慶応大学名誉教授

×

佐野 賢治

神奈川大学教授・COE事業推進担当者

# 修験道と日本文化 その象徴する世界

## 民俗宗教としての修験道

佐野 修験道は日本人の自然観、精神文化を集約した宗教といえます。修験道儀礼を体系化する宮家先生のお仕事は、身体技法、自然景観を非文字資料として扱うわれわれのプロジェクトにとり大変参考になります。まず近刊『霊山と日本人』(2004年、NHKブックス)の視点からお話をいただけますか。

宮家 山への信仰は日本だけではなく世界各地にあります。アジアでは中国の泰山、朝鮮半島の白頭山、思想的には仏教の須弥山などが思い浮かびます。多神教でも一神教でも山が宗教者の神秘体験を得る場になっている。世界各地の山の信仰の比較により本質的な宗教のあり方を探るという問題意識です。

佐野 その中で、霊山に注目する。

宮家 霊地は神がいると同時に死霊の赴く世界、魂の源郷で、山が比定されることが多い。修験道の成立は日本人の霊山信仰を基盤にしています。宗教研究には大きく創唱宗教の教学的立場と日本文化のあり方の中で考える民俗宗教的立場があります。個人の悩みを救うために創唱宗教が成立しますが、教学の布教活動が中心であり、庶民の現実の苦悩には答えられない面があります。その間に介在したのが念仏聖、陰陽師、修験などの民間宗教者です。修験道は教祖のない宗教ですから民俗宗教がベースにあって、その論理の中に必要に応じて仏教、成立神道、儒教、道教を取り入れていきます。

佐野 民族宗教でなく民俗宗教として修験道を考えられ

るのは何故ですか。

宮家 あえて人偏の俗を使うのは、人々の生活実態の中で宗教を捉えたいからです。nation(民族)では国家との結びつきが強くなってしまいます。

佐野 戦前まで日本の民族宗教は神道といわれましたが、仏教が除かれ該当しない。西南中国のイ族・納西族<sup>なし</sup>ではそれぞれピモ教、東巴教<sup>とんぼ</sup>が生活文化の規範、民族のアイデンティティになっています。自然信仰・シャーマニズム・祖先崇拜をベースに儒仏道を混交した重層性も修験道と類似します。言葉やトーテムの共通性では不十分です。エトノス、民族の核としての民俗宗教の意味に気づきました。修験道を民俗学が研究する一つの立場だと思えます。

宮家 佐野さんは虚空蔵信仰を研究されていますが、十三仏の最後、三十三回忌の甲上げの主尊は虚空蔵ですね。一方、イニシエーションとして十三参りがあります。祖霊、人間として完成するいずれの場合も最後に虚空蔵が絡んでいる。山伏の場合は、いわゆる逆修で、生前に十三回山に登るとホトケになる。

佐野 仏教学の先生たちは虚空蔵信仰に興味を示さなかった。密教の中でも秘法中の秘法であり、修法も難しいし、文字、記録にも残らなかった。

宮家 自然や天地に感応することによって記憶力を増進する虚空蔵求聞持法が南都仏教の修行の原点ですね。一種の神秘体験を得ることであり、高僧の求聞持法の修法は在俗の仏教者にとってはタブーになっている(笑)

佐野 空海も日蓮も修しています。インドでは八大菩薩の一つですが、中国、朝鮮では信仰はない。日本では現在でも民間信仰の対象で、信者は鰻を食べない。黒潮文化の鰻と北伝仏教の虚空蔵信仰の結合は、日本文化を考えるヒントを与えてくれます。

宮家 弥勒はどうですか？

佐野 弥勒といえば宮田登先生ですが、中国、朝鮮で信仰され、布袋との習合や民衆道教との関係が興味深い。

宮家 東アジア全体で通底するものがある。

### 山岳信仰の比較 アジアを中心に

佐野 英彦山の恒雄など、修験の源流と朝鮮半島との関係が注目されていますね。

宮家 白山と白頭山信仰、修験と花郎の関係などを調べてみたい。

佐野 新羅花郎の精神は今でも韓国では生きています。

宮家 残っているのですか。

佐野 慶州では花郎として、成績人格共に優れた男女の高校生を選んで表彰しています。ところで、仏教の須弥山の構造は複雑ですね。

宮家 天地を結ぶ中心のシンボリズム、柱の信仰ですね。日本では古事記の天の瓊矛、伊勢神宮の心の御柱となる。修験道では柱源護摩、天理教では甘露台。須弥山を亀が支え、上では鶴が舞う。正月には鶴亀が登場し、目出度い時も不幸のときも「鶴亀、鶴亀」と唱える。年越し、結婚式でそばを「つるっと飲んで、くっとかめ」で、宇宙を作り変えるシンボリズムになる。

佐野 そこまで深い意味が(笑)

宮家 東南アジアの王様の葬式では須弥山をつくりその上で火葬します。

佐野 アジアの山岳信仰を考える場合、塚の問題があります。モンゴル族のオボ信仰はハンオラ、山への信仰と関連します。“社”は土盛りであり、オボにその痕跡を残すと白川静先生は言っています。その中心はポプラ科の木です。

宮家 日本でも木偏に土を書いて杜です。土の上の木ですね。

佐野 修験が日本文化に果たした役割の一つは霊山信仰を体系化したことです。十三仏は日本人の葬送や他界観に必須ですが、十三塚として東北地方で始まり、関東では十三仏板碑、近畿では十三仏塔として発現します。

宮家 熊野比丘尼が持ち歩いた絵解きの掛図に十三仏があり、人の死後から再生までが描かれ、大峰山修行の本『峰中秘伝』にも十三の行場での修行が十三仏と関係づけて説かれています。塚で興味があるのは、前方後円墳です。丸い後円部は山で、亡骸を納め、前方部で祭祀をします。山と里の関係を表し、しかも周囲を水で囲んでいます。ミクロの世界で日本人のコスモロジーを表している。

佐野 朝鮮半島にも分布しますが、分布の特徴、数から言えば日本独自ですね。円部が山で墓、方部が祭祀部となると両墓制です。従来、前方後円墳は大型古墳で近畿に特徴的に分布すると言われてきた。今最も分布するのは関東地方です。東北地方では、中世の壇とみなされてきた古墳を再調査すると軸線上に奥山があり、山岳信仰と関係するらしい。

宮家 チベットのカイラス山は巡礼で有名ですね。富士山のお鉢回り、西国巡礼、四国遍路も霊地を回ります。修験の場合、吉野から熊野、本来ならば熊野から吉野ですが、その場合、熊野は死、吉野は再生の山です。死と生を繰り返す巡礼タイプと、一所をグルグル回るタイプがある。比叡山の回峰行もそうです。巡りの宗教性はシャーマンの神憑けに通じます。

佐野 チベットでは鉱山がない、聖なる山を掘ってはいけけない。チベットが栄えたのはインドとの交易ですが、支えたのは砂金だった。聖山への登山もタブーです。チベット系納西族の東巴儀礼では玉龍雪山を鋤先で模して表します。民俗学では個別事例の記述になってしまいがちですが、先生による山岳信仰の体系化が期待されます。

### 修験道の歴史

佐野 修験の起源は役小角に始まると言われますが、いわゆる自然宗教ですか？

宮家 修験は縄文文化の伝統を引くという説がありました。修験という言葉には三つのレベルがあります。一つは普通名詞として験を修める修験、一つが密教の験者の中で修行して験があるものを平安中期以降に験を修めたものとして修験と呼ぶようになったというもの。もう一つが室町初期頃に教義が固まってきた教団としての修験で、歴史学の人や文献の初出から修験を室町以降と捉え、宗教学者は宗教的な形態の発現の平安末を起源とします。佐野 一般的には奈良時代の優婆塞仏教、平地型の行基



## 対談



宮家 準

国学院大学大学院講師・慶応大学名誉教授

に対し山岳型の役小角を創始者としますが、大官大寺の僧侶たちが関係した奈良時代の自然智宗あたりから形式が整ってくるとは考えられないでしょうか。

宮家 そこまでは遡れないと思います。

佐野 修験道の系譜の中間点が空海という考え方に対しては？

宮家 空海自身は教義的なものと民間宗教的なものを合わせて持っています。民俗宗教から見ると、日本の宗教全体を貫く基調音には、アニミズム的な考え方があります。仏教的には天台本覚論、誰でも成仏できるということになります。

佐野 歴史民俗学的方法では、その基調音がマグマみたいに歴史的規制を受けながらポツと現れる。空海の雑密時代を宗学の人には評価しませんが、歴史上の空海と伝説上の弘法大師を結ぶところに意味があります。

宮家 修験の受け止め手からみると大きな流れがあります。平安末から鎌倉時代では安産祈願とか病氣直しが大きなウエートを占め、中世後期、戦国時代には、戦勝祈願が中心となり、近世期以降は、山の田楽、農耕儀礼を取り込んで聖なる力を付与した種初を授けるなどしていく。近世末から近代以降になると、逆に民間の人が修験の山に登り利益を受けるようになっていく。

佐野 修験を一括するにはできないということですね。

宮家 時代、地域によって違います。

佐野 明治初年の神仏分離以降、修験という言い方は後退しましたが東北地方では法印さんと呼ばれて生活に密着していた。正月に神棚に上げる餅をフクデといいます

が、由来は福田思想です。仏教の終着地東北では、修験が介在し稲作と結びつき餅となった(笑)

宮家 東北の鎮守とか村の小祠は、七割かた修験が管理していましたからね。関西は必ずしもそうではない。

佐野 連尺巻物も修験関係です。商人の起源も修験で、職人論、網野理論の展開に欠かせません。先生は遠慮されていますが修験道は日本の文化を象徴しているといえませんか。

### 修験道儀礼の象徴性 シンボリック・アクション

宮家 人間が神の世界と接するときには人語ではなく、しぐさで神に意思を伝える。

佐野 修験の結ぶ印はまさに身体技法ですね。

宮家 護摩を焚くときには全てを印で表現します。はじめ護身法をして自分自身の身を固め、次に護摩壇上に家を作り、ご馳走を準備する。終わると、車を出して神様を招き、供物を差し上げる。その行為をすべて印、指の形で表す。それをシンボリック・アクション、象徴として捉え、絵解きして分析します。

佐野 体全体での自然との一体化の中で、印を結ぶ行為の意味は？

宮家 忍者が大宇宙そのものを示す大日如来の智拳印を結びドロと消える(笑)

佐野 印をはじめ、真言、曼荼羅、符、經典まで非文字から文字まですべての資料が修験道儀礼の中には含まれ、象徴的意味を持つ。仏像としては不動明王ですね。不動といえば火ですが、火と一体化して力を発揮するのですか？

宮家 自身が火になることと、光明をもたらす二つの意味があります。火渡りとか、火を自由に操作する能力の誇示と灯明を献ずるという発想です。

佐野 火の熱さと、明かりという違い…。不動明王の持物、剣と羂索は何を象徴しているのですか？

宮家 剣と索を強調した修験の崇拜対象は、俱利伽羅不動、俱利伽羅竜王です。剣と羂が、魔を伏せる力を象徴している。横綱の土俵入りでも、横綱を巻いて太刀持ちを必ずつける。刑罰ではお縄にして、剣で切る。不動金縛り法は縛る形をとるし、剣印で九字を切る。

佐野 結袈裟など修験自身の持物にも象徴的な意味があるわけですね。



宮家 山伏のコスチューム(図1)は金剛界・胎蔵界を表わし、さらに不動明王、成仏することも表します。自然、宇宙そのものを着込むことになる。日本人の生活の中には、晴れ着に風景を描き自然を取り込む伝統がある。仏教語では、外在的な自然を「しぜん」、内在的には「じねん」という。自然を内在的に取り込み生きていく自然法じねんほうに爾の思想体系が修験道の中には息づいています。

佐野 山中の岩とか滝にもすべて意味がある。

宮家 修験が、洞窟での修行中に岩に仏を見る、断食など厳しい修行の中、意識が朦朧とし、無意識の底に強い仏への祈りがあれば、夢の中に出てくる。高僧伝の夢の中に見る仏ですね。

佐野 修験者は衣服から自然など全てを意味づけて一つの世界を組み立て、その中に自らを置くわけですね。

宮家 山水画を床の間にかけてみる人の心理は、絵の中にぼつんという人の心理に通じる。本来は一人で自然と一体化し、悟りを得る。回峰行した住職さんに身の上相談を頼んだ本人が、山中を一人で歩き到着したときには悩み事は消えていたという(笑)

佐野 熊野系ですと椿が描かれている修験の笈も民具、運搬具として捉えるだけでは不十分で、笈の象徴の意味も考える必要がありますね。

宮家 笈は中に仏像が入っていますから祭壇でもある。羽黒修験は笈自体を母胎と考え、それにかける班蓋を袍衣とみなし、秋の峰では、自身が仏としての再生するために祈り、その後初めて本尊を拝む。秋の峰は、人間が地獄・餓鬼・畜生・修羅・人・天・声聞・縁覚・菩薩・仏の十界の修行をし、ホトケとして生まれ変わりますが、非常に象徴性が高い。峰入り前に葬式をし、大梵天を黄金堂の前に投げ出して受胎を表し、その後母胎である山に入る。やがて山から産声を表す大声を上げ下りてくるホトケ(出峰者)を里人は盆の迎え火と同じ火を焚いて迎えるのです。

佐野 笈も山も母胎と考える、象徴物が入れ子状になって濃縮され、ピュアリファイされていく感じを受けます。

宮家 羽黒山の松例祭では、藁製の小さな苦屋「興屋聖」の中に五穀の種を入れ、位上、先途の二人の松聖が100日間祈念する。そしてその従者ともいえる小聖が太陽と月それぞれのシンボルを表わす烏、兎と化して験比べをして勝った松聖が祈念した興屋聖の五穀を種籾に混ぜて村人たちに授け、豊穰を約束する。太陽と月が農耕を育むこ

とを象徴的に表わし、日月の力を自由に操作できる修験の力の誇示ともいえます。

佐野 西南中国のイ族のピモはある意味で星の宗教者といえます。天体の星を観相して体系化し、星座を神枝で地上に現し、儀礼を行う。

宮家 北極星が方角の指標となるように不動の星は非常に重視されます。日本では北極星に対する妙見信仰です。修験では人の運命を支配する星を祀る星祭も行っています。

佐野 北斗七星にしても沖縄、朝鮮半島までは司命星ですが、修験者の活動の反映でしょうか、日本本土では厄除けの性格が強いですね。

宮家 秩父神社には妙見信仰がありますが、修験と結びつく可能性はあまり聞きません。

### 動・植・鉱物と修験 本草の世界

宮家 立木観音、磨崖仏は日本人の自然観を背景にしている。浅草の観音も吉野の本尊も海上で光を発した流木を刻んで作られた。

佐野 アニミズム、万物の霊の意識化、表面化に修験者が介在する。山形県米沢地方の草木供養塔、飯豊朝日山系では狩猟の頭領が山崎伊豆守という修験的獵師でした。獲物に四句の文を授け成仏させる。鮭供養にも修験は関係します。東北の文化は修験道文化の影響が強い。

宮家 熊・蛇・亀、日本で崇められている動物は、冬眠動物が多い。折口流では日本の神は冬期間、山に籠る。

一番大切な峰入りは、羽黒山では冬中山に籠って験力を



佐野 賢治

神奈川大学教授・COE事業推進担当者



## 対談

得た松聖が大晦日に験くらべをする松例祭の形で行われる。このように修験は山の洞穴に籠り験力を増強する。冬眠動物も同様で、神の使いと考えられ、修験はその使いの動物たちを自由に操る。狐使いはそうした一面を持っていると思います。回遊魚の鮭、寄り魚と修験の関係も興味深い。

佐野 修験は本草に詳しく、各地の修験の山には何らかの薬があります。いろいろな方法で身を枯らしていく即身仏の修行はそうした経験的知識が反映していると思います。

宮家 大峰などの陀羅尼助、立山の反魂丹の命名が非常に面白い。陀羅尼は呪文で、反魂丹は体の外に出た魂を呼び戻すという考えです。立山修験に関する富山の薬売りの源流も配札にあった。即身仏、ミイラの信仰は教義的には弥勒下生信仰ですね。

佐野 丹は水銀化合物、高野山、吉野など修験関係の寺は水銀鉢床上に立地し、四国の空海開創を伝える寺も鉢脈の上にあるといわれています。

宮家 基本的には、木から煮詰めて作る薬が多いですね。

佐野 求聞持法は鉢山開発法だという説があります。鉢山主が信仰し、鉢夫や運搬業者は聖徳太子を信仰した。全てを宿す種という概念、虚空蔵のガルバ=蔵・胎がキ

ーワードです。

宮家 日本人の原風景は「蔵風得水」といわれています。風は気、スピリットですから、アジア的ともいえますが、山の信仰には風を蓄えるという面もあるのではないかと思います。

佐野 仏教学では如来蔵、仏性論が常に論争になっている。民俗では種銭、種柿のように必ず種を残さなければ次が生えない。

宮家 吉野系修験の本尊は蔵王権現で、蔵の王様です(図2) 弥勒下生のときに必要な金を守っているといわれている。世界的には宇宙山は金という信仰があります。

## ヒコとヒメ 男と女の宗教民俗誌

宮家 男性と女性の宗教者がセットで活動する形がある。修験の場合、憑祈祷ですね。巫女に修験がカミをつける。密教のアビシャ法、伊勢の子良とその父、沖縄のノロ、韓国のムーダンにも痕跡がある。

佐野 憑祈祷も先生が強調された日本のシャーマニズムの特徴ですね。東北の近世社会では山伏と巫女さんは夫婦関係で、生活宗教として人々に密着していた。

宮家 木曾の御岳ですと、男性が男性に憑けますから、一概に男女のコンビとは言えない。天理教教祖の中山みきの時代を契機に巫女が修験から離れ活動する動きがあり、新宗教を生み出していく流れになる。

佐野 先生は、神話のヤマサチヒコとオトヒメ、山と海の関係性を重視されていますね。

宮家 折口流に言えば「海山のあいだ」です。

佐野 山の神には、山と田を行き来する農民型、山の幸をもたらす山人型がありますが、山の神、ヤマヒコはどのような性格ですか。

宮家 先行する山人の山の神は全ての物を生み育む女神の要素を示し、農民の持つ山の神の水神的な信仰に注視する必要があります。最近気になっているのは、境界神としての山の神の祭祀場所です。

佐野 狩猟儀礼で有名な新潟県奥三面では、里の山の神と、奥山の山の神を峻別しています。

宮家 奥山と里山の山の神のセットで氏神鎮守の原型を示しているとの解釈も出来ます。村の中心にある氏神は比較的新しく、村の境界にあるのが古いと思います。

佐野 東北のハヤマには薬師が祀られ、水と関係が深い。

宮家 峰の薬師ですね。古代から病氣治しは大変で、比

図1



- |            |                      |              |                |                     |              |
|------------|----------------------|--------------|----------------|---------------------|--------------|
| と きん<br>頭襟 | すずかけ<br>鈴懸           | ゆいげ さ<br>結袈裟 | ほら<br>法螺       | いさ た かねんじゆ<br>最多角念珠 | しゃくじょう<br>錫杖 |
| かいのお<br>螺緒 | はしりなわ<br>走縄          | ひおおぎ<br>檜扇   | しばうちかたな<br>柴打刀 | やつ めのわらじ<br>八目草鞋    | て こう<br>手甲   |
| ひつしき<br>引敷 | きやはん<br>脚半 (提供: 桜本坊) |              |                |                     |              |

宮家準著 『霊山と日本人』(日本放送出版協会、2004年)より。

叡山の本尊自体が薬師です。山の信仰を考える場合、上からと下からがあります。下から考えると母なる山、上から考えると天孫降臨です。その二つの交点があると思います。

佐野 木でも、根から枝に向かう樹霊信仰と、上から来る依り代的信仰の二系統があります。依り代の代表は松で北方的。楠とか照葉樹林文化では樹霊信仰と地母神崇拜が合わさって、樹母信仰となる、南方的ですね。「女房と山の神」で、民俗学者、千葉徳爾は婚姻制度まで含め山の神がなぜ女性なのかを解説しています。山の神との性的な交渉がキー・ポイントとなります。

宮家 霊山の秘仏には聖天さんが多い。山の女神に抱かれて男が力を獲得するのは、女人禁制と関係します。山で危険な仕事をする人には山の女神に守ってもらっているという意識がある。大峰山の峰入りで力を獲得した男には子授けの霊験があると女性が麓の洞川で待つ習俗があった。それが崩れると女郎屋になっていった。

### 修験道と現代社会 自然との共生

佐野 自然との共生とか環境保護は、修験道の考え方に繋がりますね。

宮家 最近、中高年の登山が大変流行っていますが、山の自然に触れ、自身の体に自信を持って帰る。個々の山伏の活動ではなく、万人が山に登って再生、生き返った気持ちになる信仰とみなせます。

佐野 熊野・吉野・高野山が世界遺産に登録されました。自然と人間の関係が織り成した修験道を核とした人類文化の遺産といえます。

宮家 それぞれの地域の持っている文化を大事にする考えが必要です。

佐野 ローカルなものがグローバルに評価される。

宮家 グローバリゼーションが広がっていますが、多様性の中で人間は生きている。その一つ一つのものに触れていくのが修験道の考え、一人一人が自分の道を発見していくことになる。それぞれの“道”の中に日本的なものがある。

佐野 道の語は意味深い。

宮家 修験道、華道、茶道、剣道...、すべて宇宙の摂理、道がありその道を人間が歩む、同時に個々人の道がありそれを妨げないかたちで歩んで行く。



図2

蔵王権現立像

(如意論寺蔵、写真 奈良国立博物館提供)

佐野 修験道は歩く宗教ですね。ランナーズハイという状態がありますが、覚醒を促す歩行があるのですか。

宮家 そこまで修行していないから何ともいえません(笑) 修験は山を歩くときに本来、蓮華を象徴するわらじを履く。土の感触が伝わり、山に身を委ねる感覚が得られる。登山靴とは違います。

佐野 修験の中に、サンカ・マタギなど山人、歩き筋の文化系統を認める考えがありますね。

最後に、このプロジェクトに対する注文、期待がありましたら？

宮家 このテーマはフォークロアの原点です。宗教学の立場から言えば、宗教経験は文字では表せない。文字化との矛盾をいかに克服するかが問題です。体験談を理解した上での理論化、体系化が大事です。研究者が勝手に解釈すると、話者の経験から乖離していく。話者の言葉より、柳田、折口の言葉を優先するようになったらおしまいです。

佐野 修験道のお話はもとより、学問論まで長時間にわたりありがとうございました。

(2005年8月26日 COE共同研究室、記録：長谷川千穂・櫻村賢二)